

関東ふれあいの道(栃木)⑱焼き物とシイの木のみち

2024年12月8日池内淑皓

2024年5月11日(土)久しぶりに週末天気が良いとの予報で、関東ふれあいの道を歩いた。
今回は、真岡鉄道の真岡駅周辺のウオークであるから、真岡駅前のホテルに一泊して二つのコースを歩き繋げた。

まずは焼き物の里、益子を訪ねる



⑱焼き物としいの木の道案内板(西明寺境内にある)



歩行地図(益子→西明寺→益子の森→円通寺→七井駅)12km 3時間30分



JR 水戸線の下館駅から、真岡鉄道に乗り換えて、益子に向かう



ローカル線はどこも赤字であるが、御多分に漏れず、ここも大変な赤字



とにかく町並みより畑、田圃が多い所を通るから、乗降客も少ない



「益子駅」 横浜から3時間半、益子駅には10:20の到着



駅前の商店街もひっそりしていて、賑やかさが見えない



それでも焼き物屋さんの看板を見つけると、入りたくなる



道標に従って町を外れ、西明寺の方へ向かう



すぐに田圃が広がる



田植えが終わったばかりの里山は、日本の原風景、癒されるね



訪れる西明寺は、坂東 33 観音の 20 番札所である



路傍には、文化 8 年(1811)置かれた奉納巡礼 100 番供養塔があった



西明寺の入口には「天然記念物 西明寺の椎林叢」と石注が建つ



椎や檜が繁茂している。暖帯林は栃木県が北限であるが、ここは特に暖かいのだらう



「西明寺楼門」(国重要文化財)室町時代の明応元年(1492)の建築



「本堂」(重文)真言宗 天平年間(729)行基が開山 本尊:十一面観世音菩薩



「高野槇」県天然近物 承元3年(1209)土御門天皇の御代に植えられたと伝える
関東北部で、このような大木に育つのは珍しいと言う



巡礼の人が、順次寄進して行ったのだろう、札所の番号が記されている



寺の裏手から高館山に向かう、この山一帯は中世の城郭である



「高館城跡」現在は空堀が残るが、室町時代南朝方の城として、関東六城の一つに数えられた。益子家宗の城であったが文和2年(1352)落城し、廃城となった。



高館山城跡から、益子の森に向かう散策路。緑が一杯に広がる素敵なトレイル



尾根の一本道なのだけれど、道しるべが所どころ設置してあり、迷う事はない



この辺り一帯を益子県立自然公園に指定して、陶芸の森と名付ける。赤松林を造り、その中に 1.7kmの自然歩道や、2kmのトリムコースが設定されている



コースの所どころ遊具が備え付けられている。ここは踏板ストレッチ



このボードは何だ



森を離れて町に戻って来ると、窯元が軒を並べる



所狭しと、陶器が並ぶ



私も記念に コーヒーカップを購入した



芸術の町であるから当然だね



ここでは田植の真っ最中



麦畑と田圃。この組み合わせが素敵な構図、そろそろ麦秋の季節を迎える



台地を歩けば麦畑が広がる。栃木県は大麦の生産量が全国の22%を占める



「円通寺の四脚門」(国重文)応永9年(1402)建造。室町時代の代表的な門で、稀に見る優雅な建造物である、と説明板が云う



本堂の屋根はトタンが被せられ、栄華を誇った時代の風情は失われた。



真岡鉄道「七井駅」にゴール。15:23 であった



七井駅発 15:51 で、今日の宿舎である真岡駅に向かう



「真岡駅」蒸気機関車をまねて駅舎にしている。真岡鉄道は定期的に SL が走る

[参考タイム] 下館駅(9:42)→益子駅(10:20-10:25)→西明寺(11:43-12:00)→権現山(12:07)→
益子の森(13:05-13:15)→円通寺(14:55-15:00)七井駅(15:23)

この項完

「関東ふれあいの道(栃木)⑩風薫る山里のみち」へ続く